

■第4回目の講座は8月25日(木)大阪府と和歌山のほぼ県境にある、和泉葛城山ブナ林で開催しました。
この日の参加者は13名。
環境事業協会本社会議室に集合し、本日のスケジュールの説明をしている様子です。
このあと貸切バスに乗り込み、和泉葛城山へと向かいました。



到着して出迎えてくれたのは、本日お世話になる「和泉葛城山ブナ愛樹クラブ」の皆さんです。
写真左は、右から順に代表の土井雄一さん、和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員の田中正視さん、前代表の
弘田純さんです。曇り空で暑すぎず、講座には絶好の天候となりました。



まずはバスを降りてすぐの駐車場横に植わっている、ブナの観察です。



春に咲いた花が堅果(けんか)をつけていました。和泉葛城山のブナの大半は、約 7 年に 1 度の周期で大量に花を咲かせ実を付けることによって、虫食いによる被害を抑えるという、木自身の害虫対策/生き残り戦略があります。



2 班に分かれてそれぞれに講師がついて講義が始まりました。こちらはマダニ対策のレクチャーの様子。写真右のような 1,000 円程度の市販品で、刺されても簡単に引き抜くことができます。



和泉葛城山頂上にある、和歌山側の神社「八大竜王社」と大阪側の神社「高麗(たかおがみ)神社」の解説の様子です。立地の経緯や、土地を守っている地主さんについてのお話を聞く事が出来ました。



奥に進むとブナやイヌブナといった、ここ和泉葛城山ブナ林(国の天然記念物の森)のシンボリックな木々が多く姿を現しました。下に生えるミヤコザサをかき分け、田中さんから説明がありました。一般の人は立ち入ることができないため、多くの場所には右の写真のように柵が設置されています。



ブナ林の説明は続きます。樹齢 300 年を超える巨大ブナを除伐してしまった事業者の話に、参加者の皆さんは興味深く聞き入っていました。



中に虫がいるということで中身を調べて観察しているところ。どんな虫がいるのかと皆さん興味津々です。



「ヤドリギ」の解説の様子。ヤドリギの果実を食べてネバネバとなった鳥の糞によって、生きている木に着生、木の養分を吸い取り成長します。



午前中のブナ林の散策を終え、デッキで休憩している様子。皆さん楽しそうですね！



休憩が終わり、午後の活動地までの移動中にある、気象観測器の説明を聞いている様子。

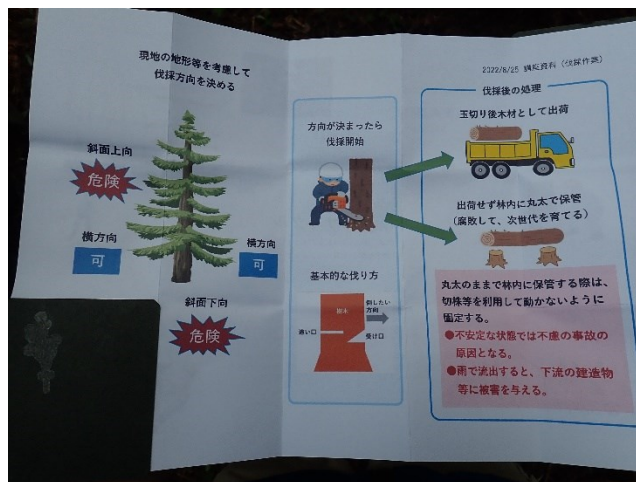
こちらは養成講座の主担当である岡本が、前職で和泉葛城山ブナ林の主担当だった経験を活かし、設置理由や各機器の役割、データ回収の流れをご説明させて頂きました。



午後の活動地に移動して、資料を見ながら森の管理や木の伐倒について説明を受けている様子。
 午後の部はブナ愛樹クラブの吉崎さんを中心にご担当頂きました。



資料は、ミウラ折と呼ばれる手法で作込まれ、人数分事前にご用意くださいました。
 色々ご準備頂いた愛樹クラブさんには頭が上がりません。有難うございます。



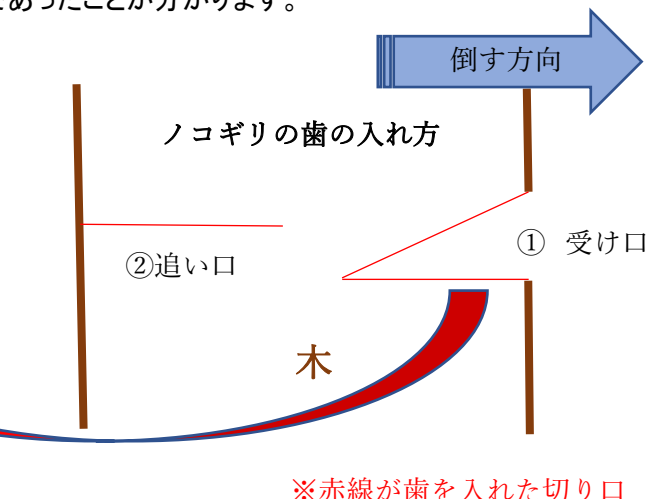
早速 2 班に分かれてノコギリを使って木を切り始めました。尾根班は全員が順番に木にノコギリをあてがい、指導を受けながら引いていきました。初めての方もいたようで、貴重な経験となりました。



「木が倒れるぞ！」の掛け声とともに、ゆっくりと定められた方角へ木が倒れ、歓声が上がりました。
倒された木はまず枝打ちを行い、綺麗な1本の丸太にしていきます。



切断するときに来た受け口の木片。25 cmほどの太さであったことが分かります。



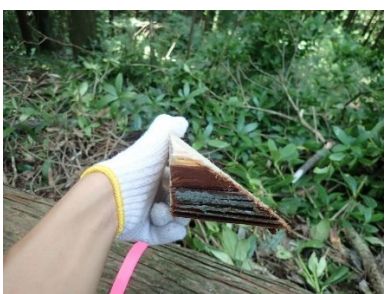
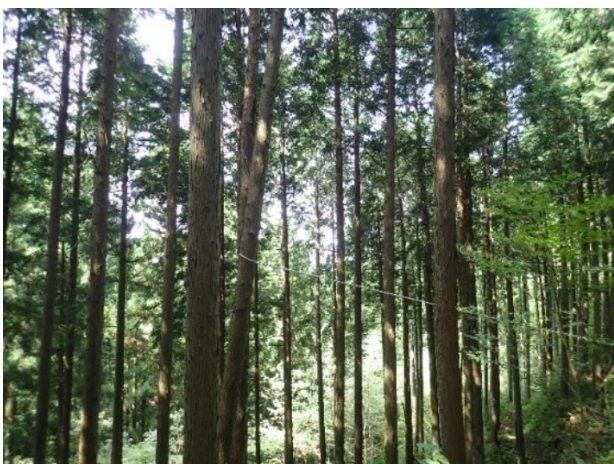
尾根下班の様子。尾根下に移動し、尾根班同様に指導を受けながら大きな木の伐倒を行いました。



倒れる方向や手順の確認をしたあと、ノコギリを引いていきました。



徐々に木が倒れていく様子。



写真右は伐倒直後の様子。
人との対比で、大きな木で
あったことが分かります。

ここからの作業は尾根班と尾根下班が合流して行いました。伐倒した木を適度な長さに切断、事前に準備されていた台の上に載せ、ブナ愛樹クラブの人でさえ使ったことの無いような珍しいノコギリを使って玉切りを行いました。



とても大きなノコギリはなかなか扱いが難しかったですが、それでも参加者の皆さんは使っていくうちに自重で切れていくのを感じたので、やみくもに力を入れてはいけないというコツを知りました。



道具を使った後はブラシで磨いたり、オイルを振り付けたり、布で拭き取ったり、丁寧にメンテナンスを行いました。



写真左は参加者の皆さんが先程の玉切り作業でできたもの。

それを写真右のように皮を剥ぎ取って綺麗にしていきました。松のいい香りが漂っていました。



木の伐倒体験のあとはブナ愛樹クラブさんが用意して下さった、森からの贈りものを使ってクラフト工作进行了。グルーガンや木工ボンドを使用し、思い思いの部材を楽しそうに組み立てている中で、絶えず笑い声が聞こえていました。



ブナ愛樹クラブの方が用意してくれた作品例。写真左はエビフライと呼ばれる、リスが松ぼっくりを食べた跡の軸を使ったもの。これ単体でも味がありますが、更にタワシや木の実を使うと、写真右のように可愛いリスを作ることができます。可愛いですね〜♪



こちらはブナ愛樹クラブの吉崎さんが用意して下さったカッティングボードで、昨年の養成講座の間伐体験で伐り倒した桧を板に加工して乾燥させ、それを材料にして今年受講生のために制作したもの。抽選での受講生全員へのプレゼント用です。すごく手間のかかることを惜しげもなくご準備くださり、感謝感謝です。



No. 2022/7/25 講座お土産

○ 昨年の講座で斫じた松等を板に加工して作りました。少し小さいので割れにくいかもしれませんが、このイラストのように色を使ってください。

○ 染め防止のオイルを塗っていますので少し脂っこいですが、使い込んでくると落ちるも良い木肌になります。

板の乾燥が不十分ですので、使っているうちに反ってくる場合がございます。図のように少し白に当てると曲ります。周囲が繰り返しているうちに、乾燥が進んで反らなくなりますが、

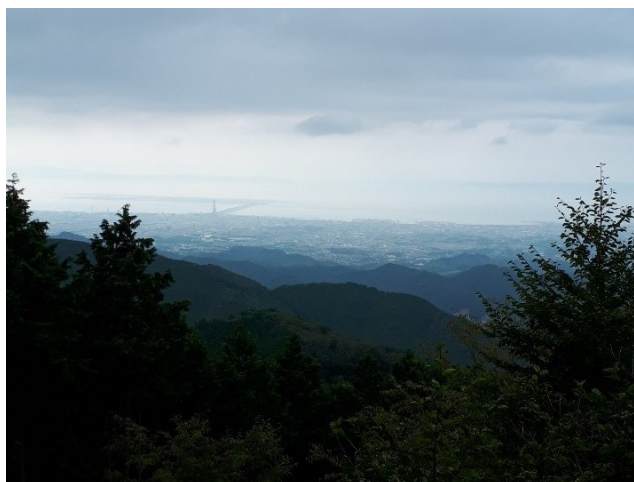
反りが戻る

○ 弊にいくつかデザイン集がありましたが、差し合って交換してください

1	スライムボード
2	スライムボード
3	スライムボード
4	スライムボード
5	スライムボード
6	スライムボード
7	スライムボード
8	スライムボード
9	スライムボード
10	スライムボード
11	スライムボード
12	スライムボード
13	スライムボード
14	スライムボード
15	スライムボード
16	スライムボード
17	スライムボード
18	スライムボード
19	スライムボード
20	スライムボード
21	スライムボード
22	スライムボード



プログラムが一通り終わり、アンケートや感想を書いている様子。
このデッキからは、写真右のように壮大な景色が広がっています。



講座ふり返りの時間。アンケートに記入してもらった内容を、数名の方に答えて頂きました。充実した1日を過ごして頂けたようで、環境保全に興味関心が深まったという感想がありました。



最後に記念撮影を行いました。最前列と 2 列目が主に参加者、その他はブナ愛樹クラブのメンバーや環境事業協会のスタッフとなります。



アンケートでは、「地域住民の神社への信仰とブナ林の保全が深く関係していることがとても興味深かったです。」といったこの地の文化歴史に関わる感想や、「100 年前に天然記念物に指定されてから、今でもブナ林がいきいきと育っていて、継続的な保全活動が、時を越えて自然の豊かさが守られていることに感動した。癒されました。」といった、壮大なスケールの背景に感動したという内容、また、「切った木を腐らせるだけでなく、多少質が悪くても売ってコスト軽減はできないものかと思った。」といった現状への意見も見られました。「またきてみたいと思いました。」といった次へと繋がる内容の感想もあり、今後の期待できる結果となりました。

この講座では、和泉葛城山の地元の文化・歴史を知った上でブナ林を散策して現状を把握し、保全の必要性を知ることができました。更には木の伐倒という保全活動を行ったことでこの地での保全の大変さを知り、また森の材料を使ったクラフト作成などで思い出もできました。参加者たちの笑顔からも分かるように、今回の経験により、今後の森林保全活動への参加に繋がる可能性が、向上する結果となりました。